



R359

様式第3号 (第8条関係)

事業者達成状況報告書

令和4年 7月 26日

鳥取県知事 平井 伸治 様

届出者 住所 鳥取市尚徳町117番地
氏名 鳥取赤十字病院
院長 竹内 裕美
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)



鳥取県地球温暖化対策条例第8条第5項(第9条第3項)の規定により次のとおり提出します。

住所(主たる事業所の所在地)	鳥取市尚徳町117						
氏名(名称及び代表者の氏名)	鳥取赤十字病院						
主たる業種	83 医療業						
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第3号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 特定事業者以外の事業者						
計画期間	平成31年 4月 ~ 令和4年 3月						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (平成30年)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度(計画) (令和3)年度 (二酸化炭素換算)	増減率	報告年度(実績) (令和3)年度 (二酸化炭素換算)	増減率	
	排出量(1)	5,397.5 t	5,073.7 t	△ 6.0%	4,517.9 t	△ 16.3%	
	実績に対する自己評価	当初の想定より多くの排出量を削る事ができた。これは、LED化が進んできたこと、進んだ省エネ機器の採用などが理由としてあると思われる。特に、職員への細かな節電への呼びかけがここまでの数字を出すのに貢献したと思われる。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率	報告年度(実績)	増減率
		二酸化炭素換算 延床面積	0.128 t-CO2/m2	0.122 t-CO2/m2	△ 5.1%	0.107 t-CO2/m2	△ 16.8%
		二酸化炭素換算			%		%
		二酸化炭素換算			%		%
実績に対する自己評価	計画当初は、0.12台を割ることはないだろうと思われていたが、結果的に0.10台を出し予想よりかなり良いペースで推移している。これらの結果を見て、効率的な空調管理の大切さ、省エネ機器の恩恵などを再認識することができた。						
寄与的取組	取組区分	目標年度(計画)			報告年度(実績)		
		実数値	二酸化炭素換算の削減量	実数値	二酸化炭素換算の削減量		
	再生可能エネルギーの利用による電力又は熱の供給	(売電量)	kWh	t	(売電量)	kWh	t
		(熱供給量)	GJ	t	(熱供給量)	GJ	t
	再生可能エネルギーの利用による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)		t	-		t
	森林保全による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	-	-	t	-	-	t
	電気、ガスその他のエネルギーの使用の合理化による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)		t	(購入量)	GJ	t
削減量等合計(2)			0 t			t	
差引排出量(1)-(2)	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)	報告年度(実績)	増減率(実績)		
	5,397.5 t	5,073.7 t	△ 6.0%	4,517.9 t	△ 16.3%		
推進体制	省エネルギー推進委員会を中心として、院内照明のLED化の更なる促進と職員1人1人の省エネ意識の向上を推進する。 外来患者・入院患者の環境に配慮しつつ、気候に対応した空調管理を行い省エネを推進する。						
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	内容				
	令和3年度	外来棟 照明	外来棟一部 309台 LED器具に更新				
	令和4年度	外来棟 照明	外来棟 4階及び地下 廊下などLED更新予定				
	令和4年度	本館 照明	本館3階 ME LED更新予定				

地球温暖化対策に資する社会貢献活動	
特記事項	

- 注1 該当する口には、レ印を記入してください。
- 2 本計画書における温室効果ガス排出量は地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の2第3項に規定する「温室効果ガス算定排出量」の算定方法と同様の方法により算定した意をいいます。
- 3 本計画書は鳥取県内における事業活動について記載してください。
- 4 主たる業種には、統計法（平成19年法律第53号）第2条第9項に規定する統計基準として定める日本標準産業分類のうち中分類を記入してください。
- 5 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。
- 6 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
- 7 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用などを記入してください。